

サポーターズカンファレンス議事録

日時：2021年2月20日（土）18:00～19:30

場所：オンライン開催（Zoom）

出席：株式会社いわてアスリートクラブ 代表取締役社長 坂本太樹

ゼネラルマネージャー 菊池利三

育成部長 中村 学

内容：J2 ライセンス取得に伴う照明・放送室・記録室状況

2020 シーズンの振り返り【TOP チーム・アカデミー・フロント】

2021 シーズンの展望【TOP チーム・アカデミー・フロント】

ドルトムントとのパートナーシップ

新スタジアム構想

自治体連携プロジェクト-GLP-

【開会のご挨拶】

それでは、時間になりましたので、いわてグルージャ盛岡サポーターズカンファレンスを開催させていただきます。この度はお忙しいところご視聴をいただきまして誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今回は誠に勝手ながらリモートでの開催とさせていただきます。ご不便をおかけいたしますが、スムーズな会の進行へのご協力をお願いいたします。また今回の開催にあたり、多くのご質問をいただきましたので、進行の中で回答をさせていただきますのでご了承の程、お願いいたします。

なお、今回の内容については本会終了後に議事録にて公開をいたしますが、情報の取り扱いには十分ご留意くださいますよう、重ねましてお願い申し上げます。また、メディア様等で、本情報の転載や展開をご希望の方におかれましては、必ず弊クラブ広報担当へ事前のご連絡をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、本日のコンテンツをご案内いたします。

本日は6点の内容につきまして触れさせていただきます。

- ①J2 ライセンス取得に伴う照明・放送室・記録室状況
- ②2020 シーズンの振り返り【TOP チーム・アカデミー・フロント】
- ③2021 シーズンの展望【TOP チーム・アカデミー・フロント】
- ④ドルトムントとのパートナーシップ
- ⑤新スタジアム構想
- ⑥自治体連携プロジェクト-GLP-

それでは、①J2 ライセンス取得に伴う照明・放送室・記録室の状況につきまして、弊クラブ代表の坂本よりご報告申し上げます。

【J2 ライセンス取得に伴う照明・放送室・記録室状況】

皆さんこんにちは、代表の坂本と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

先ほど進行よりございましたが、リモートによりご不便をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

まず1点目、J2 ライセンス取得に伴う照明・放送室・記録室状況につきまして、ご報告をさせていただきますと思います。

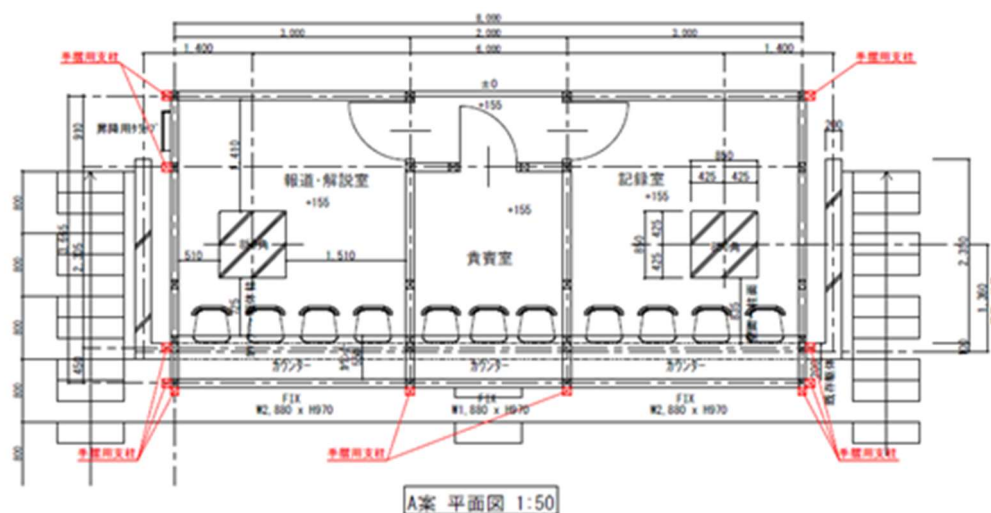
2020年9月末にJリーグから一部屋根のカバー率の不足の制裁対象ではありながらも、施設基準の例外適用申請により、無事J2クラブのライセンスを取得いたしました。

こちらにつきましては照明それから各諸室の設置が義務付けられておりましたが、一番コストがかかる照明につきましては県内全33自治体をホームタウンとしてサポートしていただいております県・それから盛岡市をはじめとしまして署名運動も14万を超える多くの方々のサポートをいただきながら、おかげをもちまして無事設置という形になりました。改めて御礼を申し上げたいと思います。

現状では照明・記録室・場内放送室、こちらがJ2ライセンスに必要不可欠な具備のコンテンツとなっております。

まず、記録室・放送室については3階のコンコースに設置をする形になりますが、全部で3室に分かれる形となっております。左から報道解説室（放送室）、真ん中に貴賓室を挟みまして、一番右側に記録室という形となります。

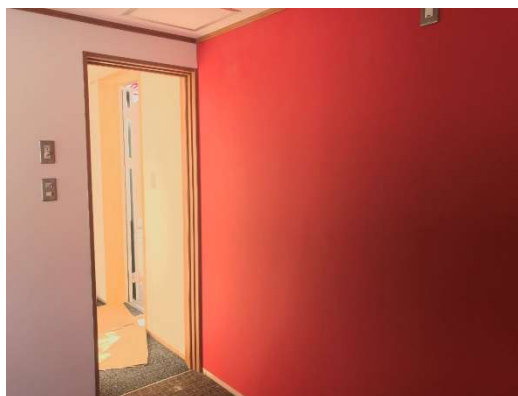
今までは渡邊アナウンサーも実況していただき、記録についても岩手県サッカー協会の方にご協力をいただいていたのですが、こういった諸室、密閉された個室の中で実施いただける形になりましたので、こちらについて実際の画像も踏まえながら、ご説明をさせていただきますと思います。



こちらは一昨日の写真となります。中から見下ろした画像です。ガラス張りの面となりまして、ピッチが見下ろせるような形となります。



こちらは内装となり、中の 3 部屋がドアで行き来できる形となっております、そちらの様子となっております。



こちらは外から見たところです。3 階の一番上のコンコースという形となりまして、今までは DAZN 等のカメラがありましたが、カメラについてはこの諸室の上から中継していただくという形になります。





当初は 2 階の中段のところに設置をする予定ではあったのですが、両サイドのところから死角ができてしまうということで、盛岡市からも再考していただきたいとのことで、急遽 3 階の方に移設したという経緯となります。

上のところに欄干が少しあるのですが、ここからカメラで撮影いただくというようなイメージとなります。こちら、一昨日の写真となり来週 25 日に引き渡しとなりまして、3 月上旬には使用が可能という形になっております。なおこの諸室につきましては NOVA ホールディングスの方で拋出をさせていただきまして、盛岡市の方に寄付をするという形で動いております。

続きまして、照明になりますが、こちらは先ほどご説明をさせていただきました通り、皆様のおかげをもちまして、無事 4 灯の設置が完了という形になりました。

こちらにつきまして、岩館電気さんという県内でも有数の電気事業業者の方に設置をいただいたのですが、そちらの提案資料の中に細かい仕様が書いてありますので、そちらもご説明をさせていただきたいと思います。

当初、「いわぎんスタジアムの方に感動を」ということで、次の 3 点が特記事項としてございました。

まずは「世界最高の技術」ということで、色むらであったり光が漏れたりといったコントロールの部分もその精度が非常に高いということで、世界 No.1 の技術、ということで、いただいております。

2 点目につきまして「ワンタッチの調光システム」ということで、単純に光が光るのではなく、音源に合わせて自動的に光が変化するというような調光システムになっております。また 3 点目についてですが、LED ということもありまして非常に「低いランニングコスト」で、10 年の保証期間を以って皆様の心に残る感動を演出するというテーマで、今回設置をいただきました。

こちらはいわぎんスタジアムの周辺は皆さんご存じの通り、特に居住区が密集している地域ではございませんが、どうしてもこういった光の漏れによって被害を被る方がいらっし

やいます。そういった点につきましてもご覧の通り、光の漏れをスタジアム以外に漏らさない仕様で設置いただいております。

環境等に対する配慮について

光の広がりを制御してスタジアム外の**農地に光を漏らさない**



そして先ほど申し上げましたが、点灯パターンにつきましては、Jリーグの基準で「1500ルクス」という照度基準がございます。こちらはピッチの中で、どここの箇所を取っても1500ルクス以上の照度を確保しなければリーグとして条件を満たさないというものでありまして、こちらにつきましても、先般の測定結果で、一部低い1560ルクスというところもございましたが、それ以外についても全てクリアしております。こちらもリーグの方に提出済みで問題なく進んでおります。

ワクワクドキドキする感動体験をということで、こちらの方を観ていただきたいのですが（某国立競技場の演出照明映像）、今一般的な白のLEDという形となりますが、今回いわスタで設置される照明が先ほど申し上げました通り、音楽に合わせて自動で調光・変化する機能が付いております。それを実際にイメージなのですが、ご覧いただきたいと思います（いわスタの照明イメージ映像）。

今ご覧いただきました通り、特段のプログラムをしなくても例えばCDなどの音源がありますと、それに対して自動的に調光システムが働いて、それに対する演出がされるという、非常にスペックとしても高いものになりますので、これからスタジアムに来られた方に対して、いろいろな演出によって大きな感動を与えられるのではないかと、という風に考えております。

【2020 シーズンの振り返り／TOP チーム】

それでは、続きまして、2020 シーズン TOP チーム振り返りとしまして、弊クラブ TOP チームゼネラルマネージャーの菊池利三より、ご報告を申し上げます。

はい、皆さん、お疲れ様でございます。菊池利三と申します。よろしくお願いします。

今年度も引き続き、ゼネラルマネージャーとしてこのチームで携わらせていただきますので、今年もよろしくお願いいたします。

まずは 2020 シーズン振り返りということで、結果はご存じの通り 11 位。11 勝 9 分 14 敗、勝ち点が 42、得点が 36、失点が 47 と。結果に対しては私を含めしっかりと受け止め、来年度に向けて、キャンプでより良いシーズンを迎えられるように準備していきたいと思います。

まず 2020 シーズンは、2 月から鹿児島・宮崎・高知と、今までにないようなキャンプをやらせていただいたという中で、キャンプ当初、けが人は出たものの、トレーニングを含め、順調な仕上がりでした。しかしコロナ禍で、3 月の開幕が延期となってしまうと、いつ始まるか見えない中でのトレーニングになってしまって、選手たちもコンディションの維持やメンタル面の調整など、厳しいシーズンとなってしまったと思います。

選手の補強に関して、J1・J2 から選手たちに集ってもらって、経験豊富な選手たちと、既存の選手たちと、そういった中で、ポジションをコンバートして活躍してくれた選手たちと。個人個人を振り返ってみると、どの選手たちも本当に、1 年間しっかりとチームのために、トレーニングもリーグ戦も、その他でも、携わってくれたなと思っています。

やはり選手たちのパフォーマンスを融合させて、且つ、最大に発揮させられなかったということは、自分を含め、申し訳ない気持ちでいっぱいです。また、シーズン当初掲げた目標を達成できなかったことは、私を含めて責任を感じておりますし、決して、強化部長が責任を取った形ではないということを伝えておきたいと思います。

そして、昨年度の補強からすれば、やはりブラジル人 4 選手を獲得したところだと思います。モライス・ヴァンデルソン・ルーカス・ブレンネル。

その中でも、モライスとヴァンデルソンについては、皆さんの前で、公式でプレーすることは無かったというところではありますが、その要因としては日本のサッカーに慣れることができなかったということ、あとは戦術理解の共有、ベースとなるコンディションが上がってこなかったというところが要因に挙げられると思います。

本人たちも本当に悔しいシーズンになったと思っていますし、我々も最大限、力を発揮させてあげられなかったというところは反省点として思っております。

また、その中でもルーカスとブレンネルに関しましては、シーズン始まりに関しては少し加入も遅れたというところもあって、コンディション調整の遅れ、文化の違いもあり、なかなかチームにフィットできませんでしたが、ゲームを重ねることによってある程度のパフォーマンスは発揮してもらえたかなと感じております。

今年度も改善していく余地はありますし、パフォーマンスを最大限引き出してチーム力を高めていかなければならないと思います。

3月開催予定のリーグ戦スタートが3か月ずれ込むことでチームの超回復が少しずれてしまったと思います。6月27日、ブラウブリッツ秋田を迎えてホーム開幕をやっと迎えることができて、4-4-2でスタートをした流れでしたが結果は0-4という形で、そこから開幕5試合勝てなかったというところでは、4-4-2のシステムはかなりポピュラーなシステムだと思いますが、そういった中でも選手個々の能力であったり、サッカーに対する考え方だったりというところが融合できなかった。

そういった中で、監督スタッフも試行錯誤した中でシステムを変更し、相模原戦で3バックを採用して、何とか初勝利することができました。

やはり選手たちもそうですし、監督スタッフ・我々も話し合った上でのシステム変更だったと思います。

前期で守備の失点数が多かったということ、後期といわれる9月以降に関しては、失点は少なくなってきた、守備の立て直しというところではできたと思っています。

その要因とすれば、3ディフェンスの選手の固定だったり、キーパーとディフェンスラインの連携だったり、守備の役割が明確になったことだったり、あとは、どこでボールを奪うのかというところがしっかりしてきたというところが挙げられると考えております。

ただ、守備の安定はできましたが、そういった中でボールを奪うことは、リーグの中でもデータ上は上位に来ているところがあります。ただ、その奪ったボールをフィニッシュに繋げていくこと、その回数を攻撃につなげていく事が課題として挙げられたシーズンだったと思います。これはやはり2021シーズンにしっかりと課題として挙げていかなければならない点だと思っています。

ただ、ラスト10戦に関しましては、4勝3分3敗、という悪くない結果だったと捉えております。そういった中で、終盤にきて安定してきた部分と、また課題とした部分というものをしっかりと次のシーズンに向けてキャンプ含めて固めていかなければいけない要素と捉えております。

今年度ですが、選手のケアだったり、シンプルに怪我をした選手のケアだったり、コンディションが上がってこない選手とのコミュニケーションをとっていくことだったり、選手たちがベストのコンディションで試合に臨めるようにしていくことをチームとして考えていかなければならないシーズンだったと考えております。

2021シーズンは全ての選手が良いコンディションで戦えるように、また、ベストパフォーマンスを出せるように、進めてまいりたいと思っています。

環境面に関しましては、また2021シーズンの方で触れさせていただきたいと思いますので、また、よろしくお願いします。以上です。

【2020 シーズンの振り返り／アカデミー】

それでは、続きまして2020 シーズンアカデミー振り返りということで、弊クラブ育成部長、中村学よりご報告申し上げます。

お疲れ様でございます。いわてグルージャ盛岡育成部の中村でございます。

まず初めに、トップチーム同様、育成部・アカデミースクールに、多大なるご支援・ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

私の方から2020 シーズンのアカデミーの振り返りをご報告させていただきます。

まず、昨年度の初めにコロナ禍が進みまして、まず子どもたち、保護者、本当にスタッフも含めてですが、大変なシーズンを迎えました。

まずは大会で結果を残すということよりも、まずは健全に、安全で、安心にできる活動を探りながら進めてまいりました。

その中で、大会やリーグ戦、トレーニングにもレギュレーションにも不備が生じまして、なかなか思い通りにはシーズンが進められませんでした。

その中で、ただ、アカデミーとして進むべき道、トップチームに通ずるもの、そういったものを、ミーティングを重ねることによって、私たちが今何をしなければいけないのか、そして何を目標にし、達成しなければいけないのか、そういったものを1つ1つアカデミースタッフ、そして子どもたち、あと保護者の方々とも三位一体となって進めてまいりました。

その中で、大会の結果というよりも、こういう困難な状態でもグルージャファミリーの一員として何を進めていかなければいけないのか、という部分の共有がしっかりとされていったということが、2020 シーズンの振り返り、そして新たなスタッフも召集させていただきながら、グルージャとしてのサッカー哲学のフィロソフィーの構築、そういったものも少しずつ、皆で共有することができたシーズンだったのではないかと考えております。

その中で、2021 シーズンに向けて、様々な課題や、皆様方からいただいたご質問も含めて、2021 シーズンの展望というところをお話させていただきます。

まずは、こういうような状態でも、大会やリーグ戦に足を運んで応援していただいた方々に本当に感謝申し上げますし、今後ともトップチーム同様にアカデミー、スクールへのご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【2020 シーズンの振り返り／フロント】

続きまして、2020 シーズンフロント振り返りとしまして、坂本よりご報告申し上げます。

改めまして、よろしくお願いいたします。

昨シーズンは私も含めましてフロントも様々な部分で模索しながらの1年間となりました。今回大変多くのご質問ならびにご要望をいただきまして、ファン・サポーター、そしてスポンサーの方々も含めまして、非常にご心配をおかけした点多々あったというように考え

ております。今シーズンはこの経験を糧として取り組んでまいりますが、まずはどこが問題であったのかというところを振り返ってまいりたいと考えております。

まずスタジアムの動員につきまして、2017 年から 2018 年、2019 年、そして昨年 2020 年という形で、戦績と入場者数につきましても算出をさせていただきました。

2020 シーズンは 1 試合平均 512 名と、J3 でも最下位ということで、非常に悔しく残念な結果となってしまいました。これはコロナを言い訳にはできず、同じ状況の中でも、岐阜・長野においては 2,000 名を超えており、まだまだ努力が足りなかったという反省が強く残っております。

去年の今時点にはまずこういった形で動員を図ろうかと考えておりましたが、1 点目は企画、そして 2 点目はスタジアムグルメと、この 2 本の柱を以って動員を図ろうと考えておりました。

ご来場された方はご存じかと思いますが、スタジアムグルメにつきましてはやはり来ていただいた方がサッカー以外で、幸せになれるような要素である「すごい美味しかった」というようなものを創出できればということで、既存店舗の方々はもちろんのこと、新規で新たな出店の方々と、盛岡市も含めまして協力いただきながら、誘致をさせていただいたという背景がございます。

2019 年は平均で 5 店舗〜6 店舗くらいでしたが、2020 シーズンは平均で 8 店舗ほどと、コンスタントに出店することができたのではという結果がございます。

しかしながら、結果的に動員に繋がらなかったため、まだまだそこにかける力であったり、足りないものがあるということを感じながら、2021 シーズンに関しましてはそれをさらに拡充をさせていきながら、質を高めていくような動きを取ればと考えているところでございます。

また、フロントにつきましては、こういった動員の少なさをどういう風に解決していくかということ、また追って後のコンテンツでご説明をさせていただきたいと思っております。

【2021 シーズンの展望／TOP チーム】

続きまして、2021 シーズンのトップチームの展望につきまして、ご報告を申し上げます。

引き続き菊池利三でございます。よろしくお願いいたします。

2021 シーズンは、シーズン目標として、J3 リーグ優勝そして J2 昇格というところをチーム全体で共有してキャンプに入りました。

そのためには昨年度の守備の安定をさらに高めること、それからゴールを挙げる・サッカーという得点を取るというところ。そのためにシュートチャンスを作る、シュートの精度を高めていく、そのためにはサイドの攻撃、昨年度はリーグの中でも低い順位でした。有効なサイド攻撃ができていない、あとはシンプルに攻撃の回数、攻める回数、それと同時にどうや

って攻めるのか、攻撃回数を増やすためにはボールを支配して、保持率を高めていくところ、こういったところのプロセスが足りなかったのではないかという分析をもとに、チームでも監督含め、スタッフ含め、選手と共有して、今年度のキャンプでトレーニングに入っております。

今年度も、鹿児島・宮崎、現在チームは宮崎の方に移動していますが、また最終調整は高知と、そういった中で、監督が考えている「ゴールから逆算したサッカー」というものを、共通理解を高めて、J3 を闘っていく準備をしまいます。

今年の J2 リーグは昨年度降格が無かったというところで、チーム数が多くなっております。そういった中で J3 リーグの選手たちも複数のチームから J2 のチームに引き抜かれて行っているというのが現状であると思います。

そういった中で、我々も選手獲得にむけて邁進しているわけですが、J3 リーグはやはり球際と、運動量と、ハードワークするということが求められる傾向にあるリーグだと考えております。そのためには、球際の強さだったり運動量だったりスピード、タフに闘える選手たち、といった補強が大事だと捉えております。やはり波があるゲームではなく、どんなゲームでも誰が出てもパフォーマンスが変わらない、チームとしてのパフォーマンスが変わらないようなゲーム展開をイメージしております。

そういった中で、

- ① FW ハンヨンテという選手ですが、新体制発表会の中で名前が挙がっていなかった選手ですので、特徴とすれば、センターFW タイプです、本当に。運動量が多くて、背後で起点になれる、強引な突破力であったり、パンチ力のあるフィニッシュ。決して、本人は怒るかもしれませんが、上手な選手ではないのですが、本当に闘える、ファイトできる選手であると捉えております。
- ② DF タビナス・ポール・ビスマルク、爆発的な瞬発力、身体能力を活かしたプレー、高さを活かしたヘディングというところ、ここはピッチで観てもらおうと本当に、観るだけでスピードを感じ取れる選手なので、是非期待してもらいたいと思います。そういった足の速さだけではなくて、やはりゴールに迫る得点能力であったり、また有永選手であったり宮市選手であったり。そういった選手たちとは違った特徴を持った選手です。
- ③ MF オタボー・ケネス。技術力が高く、なかなかコロナ禍でいろいろな大会に出ることができなくて、日本ではあまり名前が知れ渡ってはいないですが、本当にボールロストが少なく、攻撃でために作れる選手で、独特のボールの持ち方で相手を引き付けて逆を取る、そういった中でもボールを失わないで味方の時間を作ったり、攻撃で起点をつくれるような選手です。
- ④ MF 加々美登生、やっぱりスピードに乗った突破が武器で、本当に運動量を活かした中で上下動、サイドで必要な、上がっていったらすぐ下がってくる、ボールを失ったらす

ぐ切り替えて。そういったことができる選手です。

- ⑤ 松山健太、GK です。この選手は手足が長くて、キーパーとしての素質というものが備わっている選手で、パス&サポートという、キーパーからすれば大事な要素で、出したら出しっぱなしではなくて、もう一度かわる。パスというのは足だけではなくて、手でもそうですし、フィードと呼ばれるところでも、特徴としては持っている選手です。
- ⑥ MF 西田恵。今期レンタルで借りた選手ですが、スピードに乗ったキレのあるドリブルというところが魅力で、また、色摩選手と特徴は被るのですが、本当に運動量が豊富で、背後で起点になれる選手で、自分でチャンスメイクができる選手。キャンプでは色摩とどっちが背が大きいかと比べ合っていました、どちらも同じくらいの身長だったと思います。
- ⑦ MF 山川廉。この選手も身体能力が高く、今までになかったパンチ力のあるシュート、いわば長距離砲が撃てる特徴を持っている選手です。ミドルレンジからでもどこからでもシュートが狙えるような選手で、FW の登録、MF の登録、もちろん DF もできるといって本当にポリバレントなプレーヤーであります。
- ⑧ MF 増田隼司。この選手は個人戦術が非常に高く、攻撃と守備のバランスが取れる選手です。
ただコーチングといった部分で、もっと自信を持って選手を動かせるようになれば、本当に可能性のある選手だと思っております。
- ⑨ MF 武田拓真。技術力が高く、攻撃力が魅力の選手。狭い場所、相手にブロックを組まれたときの間も、ボールを受けて、前に向けてターンができる、そういった中で仕掛けていけるという能力を持った選手です。
- ⑩ MF 栗島健太。この選手はキャンプ中、トレーニング参加で獲得した選手です。攻撃と守備のバランスが取れて、左利きでゲームで幅を使うことが得意な選手で、幅を使うということは視野が広くないとできないプレーです。やはり見ておくというところ、選手として大事な能力が兼ね備わっている選手の 1 人かなと思っております。
- ⑪ DF 田平起也。昨年度まではセレッソ大阪でプレーをしまして今年度、レンタル移籍ということで、借りた選手です。センターバックのところで、左利きで、リーダーシップが取れて、コーチングが魅力の選手で、もっともっと年齢関係なく自分を出していけると今年度、チームの先発メンバーに食い込んでいける素材ではないかなという風に思っております。

今年度、既存の選手たちのポジションを、若手選手たちが脅かしてほしいです。この若手のエネルギーというものを、キャンプを通じて本当にすごいものを感じてまいりました。ギラギラしているといいますか、試合に出たいんだという顔をしている選手たちが本当に多くて、そういった新加入選手たちの姿勢というものが、チームに本当に良いものを与えているなと思っております。

ここからはトレーニング風景ですが、リリースは伏せさせてもらっていますけれど、また今年度も鹿児島ユナイテッドと試合を行ったという情報は皆様、持っていると思います。点数は言えませんが、結果は勝利することができました。45分3本。

昨年度も同じタイミングで同じチームと、鹿児島さんとやらせてもらいました。昨年度のゲームは得点がコーナーキックとPKと、という流れでしたが、今年度に関しましては複数得点ができました。最初、相手の戦術的なところで、相手監督も変わり、昨年度と志向するサッカーが変わっていたというところでは、相手の並びだったり、ボールの動かし方だったり、人の動き方が少し特殊な動き方だったので、そこに戸惑うシーンはありませんでしたが、そこをしっかりと、1本目から2本目、3本目になっていくにつれて、修正ができて、結果、勝利することができた、という内容でした。

その中で得点は色摩選手が2点と石井選手が得点。そういった中で、昨年度とは違ったゴール前のシーンというのが見せられるのではないかなと思いました。あとは太亮の得点もありました、フリーキック直接というところもありましたし、いいシーンを見せてもらっているところかと思います。

今年度はGPSで選手のパフォーマンスを測定しています。選手の背中に付けてもらい、選手の走行距離・速度・量を測りながら、選手に見合った速度だったりボリュームだったりパワー、そういったところを考えながら、フィジカルトレーニングを行っているので、無理な設定、もちろん追い込まなければならぬところは追い込みますが、無理な設定をしたトレーニングといったところは無いという状況でトレーニングさせてもらっております。

柏レイソルJ1ともトレーニングマッチをさせてもらったのですが、そういった中でもJ1のチームと戦うわけではないのですが、本当に貴重な体験・経験だったりをさせてもらっております。柏レイソルはJ1リーグの開幕がもう間近に控えている中で、本当のパフォーマンス、ベストパフォーマンスの選手できた相手でした。

風も強い中で、風上・風下といったところも関係あるかもしれませんが、そういった中ではちょっと圧倒されるシーンが多かったです。1失点目は、クリスティアーノに振り切れ、振り抜かれるシーンなどは「個の能力」の差を感じるようなシーンでしたが、ただ、選手たちは前向きで、ネガティブな要素は無く、やろうやろう！というような、前向きな姿勢で闘ってくれたと思っています。ただそういった中で、できたこと・できなかったこと。特にできなかったこと。なぜ柏レイソルの選手たちができるのか。といったところは、自分たちのチームに取り入れていかなければならない要素と思いました。

プレーの精度だったり、プレースピードだったり、バックラインを突破していくスピードだったりというところは本当に見習うべきところがあったと感じております。

あとは、今年度に関しまして、まだキャンプの最中ですので、またチームを通して報告させてもらいたいと思っています。

2021 シーズン環境面としまして、2020 シーズンではやはりグラウンド面のところで遠方に行ったり、なかなか固定した場所で練習することができなかったというところがありました。今年度に関しましてはできるだけ場所を固定するという方向で、まだ正式にはなっていないのでこの場ではお話することができないのですが、ある程度同じ場所で練習ができるような調整を行っている段階です。

またそれも決まり次第、お話させてもらえればという風に思います。

最後に、今年度の強化体制としまして、私は引き続きゼネラルマネージャーとして、監督とフロント、その他連携して、強化・育成・普及に携わっていきたい、そして岩手をスポーツの力で、盛り上げていくべく活動していきたいという風に思っています。また安強化部長も、選手スタッフならびにそういった方々と連携しながら、安強化部長も J1・J2 チームでの経験を活かして、このチームに良いものを取り入れて活動をしていきます。というところが、まず報告となります。

【2021 シーズンの展望／アカデミー】

続きまして、2021 シーズンアカデミーの展望につきましてご報告を申し上げます。

引き続き、いわてグルージャ盛岡育成部の中村でございます。

2021 シーズンのアカデミーの展望をお話させていただきます。

私どももトップチームに負けないように、私どもアカデミー、スクールも含めて頑張っていきたいと思っております。

私どもの 2021 シーズンの展望に関してですが、まずは展望というよりも 2020 シーズンの反省を踏まえた上で、2021 シーズンを迎えていきたいと思っております。

まずは私どもの方としましては、アカデミーフィロソフィーの構築というものを 2020 シーズンに秋田監督、そして本間ダイレクターを中心に進めてまいりました。

トップチームに活躍できる選手を輩出するためにはどうしたらいいのか、そしてそのためには U12、U15、U18 の各カテゴリのスタッフ選手が同じ共通理解のもとでやらなければならないコンテンツを構築させていただきました。

まだアカデミー保護者説明会というものをまだやっておりませんので、抜粋した資料となりますが、ご覧になっていただけたらと思います。

アカデミーフィロソフィーの目的となります。3 項目上げさせていただきました。

まずは私どもの方では、トップチームだけではなくて、アカデミーも、岩手県民が岩手県を、いわてグルージャ盛岡を誇りに思うフットボールスタイルの展開。

そして、トップチームで活躍する選手の輩出。

そのトップチームで活躍する選手の輩出に関して、それを目標としたものを体現化する選

手の育成を掲げさせていただきました。

その中で、この目的を構築させていくためにはまずはトップチームの 3 原則というものが大事になってきます。

その中で、秋田監督と長い時間をかけて作らせていただいたのですが、

まずはトップチームの 3 原則。「技術」「体力」「メンタル」。

この 3 項目を上げさせていただきました。

その中でも、トップチームの掲げる 3 原則をどのようにしてアカデミーの選手、そしてスタッフが高いモチベーションで構築させていくために、まずは細かく記載をさせていただきました。

まずは「止めて蹴る・ドリブル・ヘディング・守備力・状況判断など平均以上のクオリティを持ち尚且つ誰にも負けない武器を持つ」

誰にも負けない武器を持つというのがすごく大事な所かと思っております。

その中で、体力、「有酸素系、乳酸系、ハイパワー系の能力を平均以上持ち、尚且つ誰にも負けない武器を持つ」

ここの体力という部分に関しては、持久力だけではなく、基本的には 90 分間、あるいは 70 分間を闘い抜く走力であったり気力であったり体力の部分を持ち合わせるために、今年度より更に強度を上げてウェイトトレーニングを活用させていただいております。

まず、ユースチームにおきましては、週 1 回、今は毎週水曜日に雫石の体育館を利用させていただきウェイトを使ったトレーニングであったり（荷重）、自分の体重を使ったトレーニング（自重）を主に活用していきながら、誰にも負けない武器を持つ。ボールを使ったトレーニングだけではなくて、自分の体のメカニズムを考えながら食事・休憩、そういったものも含めて、3 原則に取り入れさせていただいております。

ただそれを体力であったり技術を使うものが「メンタル」だと思いますので、「最後まで負けない・逆境でも折れないメンタリティ、どんな環境でも動じないメンタリティ、そしてトレーニングをやり続ける、そして目標を達成するというものに対してのメンタリティ、その中でチャレンジをしていくというメンタリティ」を選手たち、そしてスタッフが 1 つになって共有をしていきながら進めてまいりたいと思っております。

そしてこれをどのような形でフットボールのどのような体現をしていくかという形になります。まずは先ほどもお話させていただきましたが、トップチームの 3 原則をしっかりと共有してそれを体に染みつけさせる、そして岩手でプレーをしているということも含めてトップチームだけが体現するのではなく、アカデミーの選手、スタッフ、保護者も含めて岩手と共に岩手のために戦うということをスローガンのもと、闘うようにしております。そして岩手県民のストロングポイントを活かした選手育成として、まじめ・勤勉・やり続ける持続性等、誰にも負けない武器を持っていく。目指す選手像の中に、「闘える選手」「走れる選手」これをフィロソフィーとして作成しましたが、やはりこれは過去からの継承ということもありますので、そちらも記載させていただきました。

そして、アカデミーでの一貫指導で主体的なプレー・クリエイティブな発想を育成し、「判断できる選手」を育成する。どんな監督、どんなコーチ、そしてトップチームのやり方が変わったとしても、しっかりとしたコンテンツのもとに、自ら適正な判断ができる選手、これを闘える選手・走れる選手・判断ができる選手というものを、アカデミーを立ち上げた時から継承しておりますので、こちらにも記載をさせていただいております。

そして最後に、トップチームの「勝者のメンタリティを育む」、こちらは秋田イズムと記載しておりますが、やはり勝っていくプロセスが大事。ではどのようにして勝たなければいけないのか、どうやったら勝てるのか、勝つためには何をしていかなければならないのかということを、先ほどもお伝えしましたが、コーチからの監督からのアプローチだけではなく、自らが判断して行動に移していくというところも含めて、構築していきたいと思っております。

これが、アカデミーフィロソフィーとして2020シーズンの後期から掲げさせていただいて、これを2021シーズンからしっかりしたものを踏まえて進んで参りたいと思います。また、現在進行形ではありますが「プレイングフィロソフィー」、「コーチングフィロソフィー」も作成中でございます。

その途中経過ではありますが、こちらをお話させていただきました。

ただその中で、反省も踏まえて、何を適正に育まなければならないか、まずはアカデミーとしても結果を残さなければならないと思っています。その中で、いろいろなご質問もいただいております。まずはU15/U18の強化であったり、昇格をする人数だったりアカデミーとクラブとのミーティングもさせていただいております。

スカウト部門に関しては専属のスタッフはおりませんがカテゴリースタッフが各種大会スケジュール、スカウティングスケジュール、獲得基準を明確に記載し共有することで進めて参ります。また、今期よりスタッフとして招聘しました「蓮見コーチ」は長年J1クラブでアカデミースカウト担当も歴任されておりましたので培った知識をアカデミー内で共有していきたいと考えております。

続きまして昇格状況のご報告となります。ジュニアよりジュニアユースへ昇格する生徒が11名中8名昇格となりまして新U-13が18~20名程となります。ジュニアユースよりユースへ昇格する生徒が17名中3名昇格となりまして新U-16が11名となります。特に昇格に関してのご質問もいただいております。こちらに関しては各カテゴリーの魅力を更に磨きをかけ、いわてグルージャ盛岡オリジナルのコンテンツを用いて結果と共に魅力を発信できるよう試行錯誤していきたいと思っております。

また、アカデミーの報告ではないですが4月よりクラブの協力を賜り、新規スクールを岩手県全域に活動拠点を広げる事となりました。狙いとしましては「岩手県のサッカー熱を盛り上げる事」、「グルージャファミリーを多くする事」、「アカデミー選手の発掘」を目的としております。TOPチーム選手とのふれあいなども考えておりますので昨年度までスクール活動が出来なかった方々は楽しみにしていただきたいと思いますと思っております。

あとはたぶん、皆様も聞きたいと思われていると思いますが、ドルトムントとの提携に関してはこの後、お話をさせていただきます。

今後も、個人・チームとしての目標設定、そして目標を達成する為のプロセスやその次のステップアップも含めて構築していきながら、アカデミーの子どもたちだけでなく関わった全ての人々の努力が報われるように歩みを止めずに進んで参ります。2020 シーズンの振り返りでもお伝えしましたが、アカデミー、スクールもこれから様々なツールを駆使しまして発信していきたいと思っております。そして新たな教育プログラム、地域貢献活動など「グルージャオリジナル」な部分も行って参りますので今後ともいわてグルージャ盛岡育成部をよろしくお願い申し上げます。

続きまして、残りの3点、ドルトムントとの提携、新スタジアム構想、自治体連携プロジェクトにつきまして、坂本よりご報告を申し上げます。

【ドルトムントとのパートナーシップ】

改めまして坂本です。よろしくお願いいたします。

まず、2020年7月に締結しましたボルシア・ドルトムントとのパートナーシップにつきまして、1月に記者会見は実施をしましたが、具体的に何の提携であるのかというところの部分が不明だったと思いますので、こちらに記載をいたしました。

ご存じの通りドルトムントについては育成の部門で非常に大きな実績と評価を得ているチームであり、サッカービジネスという観点でも非常に学ぶべきところの多いチームとなります。具体的なパートナーシップの内容につきましては記載の通りとなりますが、我々としては先ほど中村からもありました通り、アカデミー部門のスキルアップ、それは選手のみならずコーチも含めた形でのスキルアップを求めることが出来るのではと考えております。

こちらは3年契約となりますが、実際にグルージャの選手がドルトムント現地に訪問をしていわゆる武者修行をしてくる形、逆にグルージャの方からコーチ陣が先方に訪問をして、コーチングについて学んでくるというパートナーシップとなります。

昨年のご存じの通りコロナの状況で何もできない状況でしたので、3年契約については内容を1年順延し、2021シーズンからいよいよ本格的に交流の部分でパートナーシップの実行を図ってまいりたいと考えております。

こうした岩手から世界にも有名なドルトムントとの活動・取り組みというものは非常に価値が高いものと考えておりますので、岩手県のみならず、日本サッカー界にも良い影響をもたらしていけるよう、取り組んでまいりたいと思います。

【2021 シーズンの展望／フロント／新スタジアム構想】

続きまして、先ほど J2 ライセンスについて説明をいたしました。

現状、いわぎんスタジアムでは今年から雨漏りの改修工事も始まりまして、ご存じの通り、かなり老朽化も激しい状況でございます。

いわてグルージャ盛岡としまして、J2・J1 のディビジョンに上がっていく際に、今のスタジアムでは当然リーグの規格としても昇格ができないものですから、このスタジアムというものが懸案事項になってまいります。今現状のいわぎんスタジアムを仮に、J1 に適応するような改修工事を行った場合と、まったく新しいものを一から作った場合の施工費を概算で出してみましたところ、その差額が 3～4 億とほとんど変わりませんでした。

あくまで概算となりますが、修繕した場合は全体でおおよそ 75 億。一からの場合はそこからプラスして 80 億弱くらいとなり、今のいわぎんスタジアムを J1 のレギュレーションに沿った形で改修をする場合と、1 から作った場合とでは左程変わらないという状況になっております。

我々としてもこれから J2・J1 を目指していく中で、こうしたスタジアム構想というものは避けて通れないものでございますので、次の 4 点を構想の柱として掲げております。

① “全天候型”にて安定した工業の実施催行が可能

いわゆるドーム型となります。ドーム型で密閉をすると施工積算金額として 1.5～2 倍くらい余計にかかります。京都など、他のスタジアムなど最近新規建設しておりますが、全天候型でないという理由は。単純にコストという部分が非常に大きくなるのしかかってくるからとなります。しかしながら、東北の気候状況を観ながら、全天候型というのは非常に重要な要素ではないかと考えております。

② “岩手らしさ”を押し出した”文学”と”スポーツ”の融合

スタジアムはもちろんスポーツをメインとしますが、やはり我々岩手は、アウェイの方々が来られた時に岩手らしさを感じてもらえるような、文学との融合ができないものかと、いうところを構想として考えていきたいと思っております。

③ 東日本大震災を経験した被災地としての使命（チャリティ等）

未だに震災の影響で苦しんでいる方が少なくない中で、岩手という地において、スポーツという見地からどういったことができるのかということを常に考えるべき立場にあると考えております。

これは、安直にチャリティを実施するということではなく、やはりスポーツが何を生み出せるのかということを考えながら我々はクラブを運営しなければならない立場にあることを考え、構想としても盛り込んでいきたいと考えております。

④ 立地面→東北におけるスポーツの雄を目指して

自治体にもスタジアム構想についてお話をさせていただいておりますが、現状 3 自治体よりスタジアム誘致のお話をいただいておりますが、私個人的に考えているところでは、現在操車場になっている「盛岡駅南口」を想定しております。こちらは JR さんの持ち物となりまして、決して売らないという判断をいただいております、貸すことはできるかもしれないというお話をいただいております。これまでも秋田監督にも同席の上、3 度ほど JR さんとは面談をさせていただきまして、グルージャの展望・構想を伝えさせていただいておりますが、まだ J3 というところと、機運がまだまだ高まっていない中で、JR の方々の気持ちを動かすところには至っていないという現状でございます。

しかしながら、スタジアムについては我々夢を持って取り組むべきところと考えていますので、次にあくまでイメージ案ではございますが、皆さんと共に夢を見たいと思い、紹介させていただきます。新スタジアムのイメージパースとなります。

某業者の方から「全天候型であればこういったものがある」といただいたパースとなります。屋根の稼働システムについても色々な形がありますが、先ほど申し上げた通り、コストの面でどうしても高騰してまいりまして、なかなか東北の地でも取り入れられないという状況でございます。しかしながら寒冷地仕様ということで、降雪に対する対応についても、こういったご提案をいただいております。

そして付帯設備について、先ほど「文学とスポーツの融合」というお話をさせていただきましたが、岩手は多くの文豪を輩出してきた地であります。スポーツがただスポーツだけのフィールドというだけでなく、やはりこれから J2・J1 で多くのアウェイの方々が来られた際に、岩手を知る 1 つの大きなきっかけとしてスタジアムがあるべきだと考えております。そういった意味で例えば「文学コーナースペース」や、被災地を忘れないような「復興メモリアルスペース」であったりと、そういったものもスタジアムの中に設置しても良いのではと考えております。

こういったスタジアムがもしも盛岡駅の南口に建設がもしできれば、東京からわずか 2 時間 15 分で来場出来て、駅を出て 3 分くらいでスタジアムに入れる、そして雨が降っても風が吹いても雪が降っても雷が鳴っても関係ないような状況の中で、イベントが一切中止されないという環境の中で、スポーツをはじめとした多くのイベントが実施できる環境が整うことになると思います。

全天候型という形となりますので、ビニールハウスのようなイメージを思い浮かべていただければと思いますが、こういった上からの採光をとりながら、常にスタジアム内は一定の気温でプレーできるということとなります。

これは選手のコンディションの安定のみならず、観客の方々にとっても寒さに打ち震えながら観戦することなく、安心安全に心行くまで観戦ができる環境が整うということになります。

先ほど申し上げました通り、こちらはあくまでも夢の域を出ておりません。しかしながら、

こういった夢を持ちながら、我々はクラブチームを運営していくべき立場にあると思いますし、こういった夢を皆さんと紡いでいければと考えております。



【2021 シーズンの展望／フロント／自治体連携プロジェクト-GLP-】

最後に、2021 グルージャ自治体連携プロジェクトと題しまして、ご説明をさせていただきたいと思います。

こちらについては SNS でも配信させていただいておりますが、先のご報告の通り、今現状のグルージャの課題であります「観客動員」が改善されなければ、いつまでたってもグルージャが地域と密着として皆さんと共に成長していくことは出来ないと考えております。そこで今回新規プロジェクトを立ち上げてまいりましたので、ご説明をさせていただきます。

いわてグルージャ盛岡、2019 年から県内全 33 自治体をホームタウン化させていただいております。局所的なサッカー始動や地域のホームタウン活動はさせていただいておりますが、実質的な活動は各シーズン開幕前に各自治体の表敬訪問に終始していたのが実態ではないかと考えております。

こういった自治体との連携の中で、せっかく 33 自治体をホームタウン化したということなので、もっといわてのためにできることはないかと考えました。

そんな折に、今年の 11 月 9 日、盛岡市の仙北小学校という小学校、5 年生 6 年生合計 238 名を対象に大塚製菓さまとのコラボレーションで、食育をテーマに講演をさせていただきました。

弊社からは元グルージャ選手である益子が参加をいたしました。自分が選手であるときの食生活と、選手を引退して一般の食生活との違いだったり、なかなか貴重な話を聞けたということで、講演自体は好評をいただきましたが、私がこの講演でショックだったのは、小学生のお子様たちに「グルージャって知ってる？」と聞いたところ、ほとんど知らなかったということでした。「キツールっていう、変な鶴みたいなのは見たことがあるけど、グルージャって、サッカー？ バスケ？」そんな感じでした。

これが私個人としては非常にショックでございました。そのあと校長室にまいりまして、副校長先生と教員の先生とお話をさせていただきましたが、「お子様がせっかく今日本当に集中して話を聞いていただけて嬉しかった。ただグルージャ自体を知らないということであれば、是非、今度いわぎんスタジアムに生徒様を無料でご招待させていただけないか？」とご提案させていただきましたところ、副校長先生から「是非お願いします！」と、二つ返事でご快諾をいただいたという経緯がございました。

そのわずか 9 日後、11 月 18 日（水）、平日の相模原戦に仙北小学校の 6 年生 120 名をいわぎんスタジアムに無料でご招待させていただきました。スタジアムグルメであったり総合案内、そして商品の販売であったりなど、我々フロントスタッフやボランティアの方をお願いしているところを「職業体験」という位置づけで、お子様方に手伝っていただきました。

試合が13時からでしたが、10時頃にはスタジアムに来ていただき、グループ分けをして職業体験という形で実施をさせていただきました。もともと仙北小学校では「すずかけのもりプロジェクト」という課外活動があり、その一環にカリキュラムとしては組み込んでいただいたという背景がございます。

試合は引き分けで終わりましたが、最後ピッチの真ん中でグルージャと相模原の選手が真ん中で客席に挨拶をしますが、そのあとグルージャの選手たちが芝生席にいた仙北小学校のお子様たちに歩み寄って挨拶をしてくれました。その時に子どもたちがものすごい歓声で選手たちを迎えてくれたのを見て、大変感動致しました。



終わった後にお子様方にもまたヒアリングをさせていただきました。「どうだった？」とお聞きしたところ、「今日本当に初めてプロサッカー選手の試合を見たが、迫力がすごかった」といったコメントがありました。40歳以上の方であれば、秋田豊の名前は知っていても、今の小学生のお子様は知らないと思います。今までグルージャの名前すら知らなかったのも、選手の名前も知りようがない中ではありましたが、お子様方が「ルーカス選手がすごくカッコよかった！」「ブレンネル選手がんばってほしい！」と、自分のお気に入りの選手を一人ひとり見つけてくれ、みんな口々に興奮して話をしてくれました。

そして私が何よりもうれしかったのは、先生方からの言葉でした。仙北小学校のある女性の先生に試合終了後にお伺いしたところ、「この招待が決まってから本当に子供たちはみんな楽しみにこの日を迎えたんです。なぜかという、今年（去年）、コロナの影響ですべての行事が吹っ飛んでしまった。だからこそ、子どもたちがこんな風に天真爛漫に笑っている笑顔を久しぶりに見ることができて、本当に嬉しかったんです。」と、感極まって涙目ながら話してくれました。それを聞いて私も心から感動したのです。

ここに写っている子どもさんは、そのほとんどがサッカーに興味がない子たちがほとんどだと思います。でも、サッカーの試合を観るということによって、なにか自分の中できっかけになって、そしてこんなコロナ禍の閉塞感の中でも、友達と一緒に少しばかりの思い出をつくるという機会を設けられたということが、我々グルージャとしても非常に嬉しかった

んです。

Jリーグのマッチコミッショナーといって、公式試合がしっかりとJリーグの規定に沿って運用出来ているかの確認をする方からも、「この取り組みは本当に素晴らしいので、是非Jリーグにも報告させていただきます」と嬉しい言葉をいただき、実際報告をしていただきました。

最後こういう形で、校長先生にもお越しいたき、Tシャツも全員無償でプレゼントをさせていただきました。このキッズールも小学生のお子様が入っています。これは恐らくクラブ史上でも初めてだと思います。もう徹底的に経験してもらおうと、入っていただきました。



私どもとしてもこんなに喜んでいただけるのであれば、もっともっと県内の子どもたちに経験していただきたい、横展開できないかと考えたのがきっかけでございます。それが、2021 グルージャ自治体連携プロジェクト、GLP と、私たちは頭文字をとって呼んでおります。

具体的には次の3ステップで進めてまいりたいと思っております。

まず1つ目は各自治体へのご提案ということで、全33自治体とポスターを作成させていただきました。SNSでも随時配信しており、ご覧いただいた方も多いと思いますが、各自治体の観光課、もしくは地域推進課の方々にGLPの趣旨を説明させていただき、まずグルージャと一緒に取り組んでいくのだといういわゆる“シンボルポスター”のようなものを作成させていただきました。これらのポスターは我々グルージャが一方的に作成をしたわけではありません。これは各担当の方からこの画像、説明文、キャッチコピーを全て提案いただき作成をさせて頂き、グルージャとしてはキッズールを合成したのみです。すべて自治体の方々からのものを尊重してそのまま掲載をさせていただきました。



実際に、自治体に何をお願いするのかと申しますと、自治体の方々に冠(マッチスポンサー)を持っていただきます。本来なら一般の企業の方にスポンサーになっていただくとなると、100万円～150万円しますが、これを各自治体になっていただく。しかしながら、冠を各自治体に行っていただくにあたって、無料で構わないのですが、各自治体に住んでいるお子様たちをスタジアムまでのバスの予算を捻出していただけないか?という点をお話させていただいているところでございます。スタジアムまでの交通費に関して、もちろん盛岡市内であれば近いのですが、岩手県も非常に広いものですから、1日のイベントになると思います。このバスも1日借りるとなりますと1日5～10万円のコストが発生しますし、そんなお金がすぐに自治体から出るものでもないと思います。先般の仙北小学校の子たちは何で来たのか、大型バス5台できたと。これも推測の域を超えませんがいろいろなイベントがコロナで吹っ飛んでしまったこともあり、その課外授業の予算をスライドされたのではないかと推察しております。

今年もワクチンの接種が始まりましたが、依然として厳しい状況は変わらない可能性がご

ざいます。だからこそ、こういった形で子どもたちをこの閉塞感から少しでも引き出してあげられるような機会をグルージャとして作っていききたいと、いうことで自治体の方々には、そういった「旗振り役」として担っていただきたいということで、訪問に上がっているところでございます。そして必ずしもバスをチャーター頂かなくとも、高校野球部や市や町でお持ちのマイクロバスなどで使っていないものがもしあれば集めていただきながら、まずは小学生・中学生のお子様を、スタジアムまで送っていただけないかと、いうところをまず、お願いしているところでございます。

イメージとしましては、先ほどの仙北小学校の子たちのようなスキームで小中学生をスタジアムへ無料でご招待、これもただ単純に招待するということだけではなく、岩手に1つしかないサッカープロクラブチームがどういう運営をしているのかと、いうことを体験してもらう中で、岩手を知っていただく1つのきっかけになればという想いも込めて、「職業体験」を絡めた上での観戦ということを考えております。

今回、仙北小学校の子たちにはファン T シャツを無償で配布させていただきましたが、これを毎回グルージャで拠出することはできませんので、自治体の方々にもこういった予算を捻出していただけないかとお願いしているところでございます。

皆様ご存じの方もおられるかと思いますが、J2・J1のクラブはご年配の方が、試合があるたびに全身をクラブのレプリカユニフォームで固めて、みんな楽しみにその日を迎えて、みんなで盛り上がるという、そういったいわゆる「居場所」があるということが、クラブチームとしては非常に価値があることだと思いますので、まずはお子様たちを、職業体験を絡めながら無料でご招待させていただくことを皮切りに、スタジアムへの動員を図っていききたいと考えております。

そうは言いましても自治体の方に「おんぶにだっこ」というわけにも参りません。我々としては、自治体に旗振り役として冠を持っていただきますが、1自治体ではなく、「複数の自治体との合同開催」ということで、その自治体に在在を構える企業の方、会社の方からも拠出をいただいて、同じ地域に住む子どもたちのために、バス代であったり、Tシャツ代であったり。もし可能であれば、グルメチケット、500円でも1000円でも良いと思います、協賛としていただけないでしょうかということを今、お願いに上がっているところでございます。このシャツに関しては、サンプルがございますが、そこに協賛をいただきました企業様のロゴを圧着させていただくことで、お子様が帰った後にご家族がそのシャツをご覧になった際、この企業が招待してくれたんだということが分かり、企業価値としても非常に意義の高い協賛につながると考えております。

正直申し上げましてグルージャとしては1円も利益は出ません。売上も立ちませんが、先

ほどの仙北小学校のような例をもとに、多くのお子様方がグルージャの試合を見て喜んでいただけるような、その機会を作っていくことが、この2021年のテーマとして歩を進めてまいればと考えております。

地域の小中学生のお子様たちをいわぎんスタジアムへお誘いし、そしてサッカーの力で、岩手を元気にできると強く信じております。

我々がもし今年、運よくJ2に昇格できる実績を勝ち得たとしても、それだけの要素で来年いわぎんスタジアムが満員になるかといえば、恐らくならないと思います。それはまだまだグルージャとして支えられていない、フロントとしての力が至らないということの証明であると思いますので、まず2021年はこうしたGLPを1つの皮切りとしてグルージャを若年層から知っていただく機会を創出し、そしてグルージャとして岩手の各地域と連携を図りながら何ができるかをしっかり明確に行動をしていく1年としたいと思います。

最後に、皆様から非常に多くのご質問・ご要望をいただきまして誠にありがとうございます。私どもとしては多く反省することもありましたし、やはり、総括して申し上げるならば、ファン・サポーターの皆様ともっとリレーションを図り、そしていろいろな意見交換をすべきだったというところが挙げられます。

会社として、クラブとしてできないことも当然ございます。でも、何ができ何ができなにかということが分からない状況の中で、ファン・サポーターの方々をモヤモヤさせてしまったのではないかという後悔もございますので、そういった部分はこれから定期的なミーティング、しばらくはZoomのような形になるかもしれませんが、様々な形で皆様ともリレーションを図らせていただき、その中で色々と教えて頂きながらグルージャを成長させていきたいという思いで、この2021年というものを皆様と一緒に取り組んでいければと考えております。

これからも引き続きいわてグルージャ盛岡を宜しくお願い致します。

